



1 神原神社古墳

県内最古の古墳
大原郡加茂町神原

一九七二年、斐伊川の支流である赤川の川幅拡幅工事に先立つ発掘調査で見つけられました。埋葬施設は割竹形木棺を納めた竪穴式石室で、内部から卑弥呼が中国の魏王朝からもたらされた「景初三年」銘のある「三角縁神獸鏡」をはじめとする数々の副葬品が発見され、全国的に名が知れました。この古墳は出土した土器から、県内でも最古の古墳と考えられており、その出現の背景を巡って議論が交わされています。

現在、竪穴式石室は神原神社脇に移され、復元されています。県内の竪穴式石室はほとんど見ることができないので、ここで見学するのはいいでしょう。

4前



2 岩屋古墳 町指定

整美な横穴式石室
仁多郡仁多町高田

巨石を使って造られた、横穴式石室があります。石室は玄室と羨道に分かれ、玄室は大きな一枚石を組んで造られています。石材は花崗岩の割石ですが、表面はきれいに整えられており、切り造りの横穴式石室を思わせます。付近にはのちの奈良時代に造営された高田廃寺があり、その関連も注目されます。

7前



3 松本古墳群 県指定

珍しい前期の前方後方墳
飯石郡三刀屋町給下

一九六二年に、松本一号墳の発掘調査が行われ、古墳時代前期の大形前方後方墳として早くから注目されている古墳群です。一号墳は、後方に粘土にくるまれた割竹形木棺を二つ安置したもので、その一つから中国製の鏡が発見されています。また三号墳は、近年の測量調査によって一号墳と同規模の前方後方墳であることが明らかになり、その形態から一号墳より古いものと考えられています。

出雲の平野部では古い前方後円墳や前方後方墳はほとんどありませんので、なぜここにもあるのか注目されます。このほか円墳や横穴式石室を持つ古墳もあり、おすすめの古墳群です。

多
木棺
4



4 長者原古墳 町指定

終末期の方墳
飯石郡赤来町下赤名

一辺一メートルのきれいな正方形をした方墳です。墳丘には二つ平坦面がまわっており、三段築成の形をとっています。発掘調査が行われていないので、わしいことは不明です。整った方墳であることから、古墳時代の終りころのものと推定されます。終末期の方墳は、出雲山間部では珍しいものです。

7



7 地藏山古墳 国指定

出雲西部最後の大型古墳
出雲市塩治町



出雲工業高校のグラウンドに行く道沿いにある古墳です。横穴式石室は壁・天井とも大きな一枚の石でできており、二つの部屋が造られています。奥の部屋に続く狭い入口をくぐると、中には口を開けた家形石棺が横たわり、お地蔵様の部屋として再利用されています。その石棺の前には石で造られたベッドがあり、前の部屋とあわせて何人の人が葬られていたのか興味あるところです。

見所の多い石室ですが、出土品は知られておらず、造られた時期は石室の特徴から七世紀前半と推定されます。出雲市の古墳時代を語るうえで鍵となる古墳の一つです。

7前?



8 妙蓮寺山古墳 県指定

閉塞石の残る古墳
出雲市下古志町



妙蓮寺の西側の墓地近くにある全長五〇メートルの前方後円墳です。墓地を抜けて杉林を進むと標識が見つかり、この杉林の道が古墳のくびれ部にあたります。前方部は杉林の中にあるためよくわかりませんが、後円部には横穴式石室があり、入口には、石の扉が二枚そのまま残っています。中に大きな家形石棺が置かれ、全体として今市町の大念寺古墳に似ています。

見学に来た人が、石室の床からガラス小玉を見つけて教育委員会に届けたこともあるそうです。石室の隅々をじっくり捜すと、何か見つかるかもしれません。ここから出土した大刀から、最近になって象嵌（彫込み模様）が発見されています。

6後



エリア6 奥出雲

奥出雲の山並みを縫うように流れる斐伊川はその姿から出雲神話に登場するヤマタノオロチによくたとえられます。この中流域は、出雲の中でも早くから古墳が造られた所で、加茂町神原神社古墳・三刀屋町松本古墳群・木次町斐伊中山古墳群など割竹形木棺をもち、銅鏡を出土した前期古墳が知られています。なかでも「三角縁神獸鏡」が発見された神原神社古墳や、全長五〇メートル級の前方後方墳二基が相次いで造られた松本古墳群などが有名です。

その後、五世紀には自立した古墳は造られていませんが、六世紀後半からは横穴式石室や横穴墓が盛んに造られ、人物埴輪を多く出土した仁多町の常楽寺古墳、特異な石室を持つ無木古墳群など、独特の古墳文化があったようです。